

## 参加グループ及び出演者プロフィール

### ■アンサンブル・エネサイ／Ensemble Ene-sai(ロシア連邦トゥバ共和国)

#### 北極に流れ込む聖なる河から命名された、トゥバ最高峰の芸術アンサンブル

モンゴルと南シベリアの間に位置するトゥバ共和国。“エネサイ”の名は、トゥバを流れ北極まで流れ込む聖なる河「エニセイ河」からつけられた。国立アンサンブルのトッププレイヤーたちが自らのアイデンティティーを追及するために結成。トゥバのみならずロシアを代表する名女性歌手のクーラル・ナデージダを筆頭に、輝かしい受賞歴をもつ若手 No.1 のホーメイ歌手メルゲン・クーラルをはじめとする個性的な4人の歌い手たちと、マンダン＝ホルロー・アヤン率いる3人の踊り手たちで構成される。独特の歌唱「ホーメイ」の数々や、民族楽器の演奏、旅の歌から子守歌などの民謡や歌謡、トゥバの民族舞踊やラマ教の宗教舞踊などを披露する、同国を代表する芸術アンサンブルである。

### ■フリーキー・ジーザス&コシガ／Freaky Jesus&Cossiga(チェコ共和国)

#### 声だけで超絶なるビートを刻む、いま世界的に注目されるボーカルユニット

チェコで話題のビートボックス・ミュージシャン。(ビートボックス＝口とマイクによる電子音楽のイミテーション)テレビの司会やパントマイマーとしての経歴を経てきたフリーキー・ジーザスと、ラップ・グループ Uzun Arac の創業者として、チェコのヒップホップ・カルチャーをリードするコシガによる特別ユニット。現在は“現代的なコミュニケーションの陥穽”をテーマにプラハの劇場アーカシアターがプロデュースしたオリジナル作品「CHAT」で活躍中。

### ■巻上公一／Koichi Makigami (日本)

#### ジャパニーズロックの歴史を創った名バンド“ヒカシュー”のリーダー

超歌唱家、日本トゥバホーメイ協会会長。今年デビュー26年になるロックバンド「ヒカシュー」のリーダー。声帯の可能性を探る様々な試みを、国内外での数々の即興演奏や「超歌謡セッション」などを通して縦横無尽に行っている。最新CD「KOEDARAKE」ほか、レコーディング作品も数多い。静岡文化芸術大学特別講師。

### ■横川裕子&福士あきみ／Yuko Yokokawa & Akimi Fukushi (日本)

#### 日本を代表する実力派女性民謡歌手2人による特別ユニット

日本を代表する気鋭の実力派歌手、横川裕子と福士あきみによる、愛・地球大交流祭のために特別編成した女性民謡ユニット。

横川裕子は15歳で「秋田船方節全国大会」に出場。史上最年少優勝を果たし同年クラウンレコードよりデビュー。16歳で「本荘追分」、17歳で「秋田追分」、18歳で「秋田港の唄」「秋田おばこ」各全国大会で最優秀賞受賞。史上最年少で5冠を達成した。

福士あきみは91年に「青森民謡協会全国大会」の青少年の部「津軽じょんがら節」で優勝。以降、「郷土民謡民舞全国大会」「南部俵積み唄全国大会」「本荘追分全国大会」「桜花グランプリ争奪津軽五大民謡大会」「青森県民謡グランプリ～青森民謡王座

決定戦」など数々の大会で優勝歴をもつ、日本を代表する実力派民謡歌手。

## ■松田惺山／Seizan Matsuda（日本）

### “日本の音“を探求するコンポーザー＆パフォーマー

尺八奏者、作曲家、和太鼓集団「鬼太鼓座」代表。92年、竹の楽器による「バンブーオーケストラ」を矢吹誠と共に結成。「鬼太鼓座」にゲスト出演し世界ツアーに参加。95年、フィンランドのタンペレビエンナーレ等にて国内外の音楽家と共演するなど尺八の可能性を探求する一方、自主企画コンサート等、独自の方向を目指し活動中。98年ソロアルバム「SEIZAN」をリリース。

## ■ちんどん月島芸能社／Moon Lighters' ChinDon(日本)

### 世界を舞台に活躍する新世代“ちんどん屋”

近年のレトロブームにより再び脚光を浴びている「ちんどん屋」。熟練した親方たちからその技と精神を引き継ぎつつ、東京を拠点に活動の場を海外へも広げるなど発展進化中の新世代ちんどん屋。50年以上も続く富山の「ちんどんコンクール」にも出場し話題を呼んだ。誰もが一緒に口ずさみたくなるような心のメロディーを、楽しく、賑やかに、艶やかに奏でる。21日は「全国ちんどん博覧会」へのゲスト出演などちんどん屋との共演も数多い凄腕ジャズミュージシャン・梅津和時(sax,cl)も参加する。

## ■蟹江尾八会／Kanie Bihachi Kai(愛知県)

### 地元愛知を代表する民謡民舞の華

89年、「名古屋甚句」で「全日本民謡民舞連盟全国大会」優勝、90年、「岡崎五万石」で「輝け！日本民謡大賞愛知県大会」優勝などの輝かしい受賞歴をもつ家元・蟹江尾八により91年に設立。名古屋を拠点に、民謡を基盤とし、日本音楽との融合と更なる飛躍を求め、2500曲ほどもあるといわれる地域の埋もれつつある唄の発掘、採譜につとめ、端唄・長唄などの古典の音楽との芸域を深めるべく研鑽を重ねている。

今回は蟹江尾八会のほか、「尾鷲節」(三重県尾鷲市)の唄と踊りで「尾鷲節保存会」と「坂東流柳蛙会」が、「郡上踊り」(岐阜県郡上市)のお囃子と踊りで

「東遊会」が応援参加し、地元愛知県をはじめとする中部地方の多彩な唄と踊りの姿を紹介する。